



第100回北米放射線学会 (RSNA 2014) が、2014年11月30日(日)～12月5日(金)の6日間にわたり開催された。記念すべき100回目のRSNAには、前回から5%多い5万6030人(速報値)が参加。会場となったマコーミックプレイス(イリノイ州シカゴ市)は、活気にあふれていた。100回目のテーマである“A Century of Transforming Medicine”のとおり、放射線医学は100年の間RSNAとともに発展し、医学の変革に影響を与えてきた。今回は、その歩みを振り返るとともに、次の100年に向けた放射線医学のあり方を考える場となった。なお、Technical Exhibitについては、1月号別冊付録『RSNA 2014 ハイライト』、インナビネット「RSNA 2014 スペシャル」(<http://www.innervision.co.jp/report/rsna/2014>)も、併せて参照されたい。

100年の歴史を振り返り 放射線医学の今後を展望

RSNAの前身であるWestern Roentgen Societyは1915年12月15、16日の2日間、シカゴ市のThe Hotel Shermanで会合を開いた。これが今日のRSNAの始まりである。1918年にはTechnical Exhibitが初めて開かれ、1975年にはマコーミックプレイスを会場として開催された。その後、一時会場を変えたが、

1981年以降、マコーミックプレイスでの開催が続いている。

この100年の歩みとともに放射線医学は大きな発展を遂げ、医学の進歩に寄与してきた。初日11月30日に行われたOpening Sessionの中で、大会長を務めるミシガン大学放射線科教授のN. Reed Dunnick, M.D.は、President's Addressとして“Reflect on the Past, Prepare for the Future”をテーマに講演し、放射線医学の歴史を振り返り、今後を展望した。Dunnick大会長は、

1895年のレントゲン博士によるX線の発見によって始まった放射線医学における重要な革新的技術として、“CT and MRI” “ACE Inhibitors” “Balloon Angioplasty” “Statins” “Mammography”を挙げた。さらに、Dunnick大会長は、次の100年に向けて、研究者の育成や教育方法の確立、人材育成や技術開発のための資金、他分野との協力、学術研究の支援、産業界との連携が必要となると述べた。

President's Addressに続いて、米国



大会長の
N. Reed Dunnick, M.D.



Special Lectureを行った
Francis S. Collins, M.D., Ph.D.



Presentation of Honorary Membership
での Dunnick 大会長と富樫氏

大学の森 健策氏らの“3D Printed Liver Models for Diagnostic and Surgical Assistance : How to Prepare Data, Print and Utilize?”が Magna Cum Laude を受賞した (50 ページ参照)。12月3日には、Announcement of Education Exhibit Awards が行われ、Dunnick 大会長から受賞者が発表された。

国立衛生研究所 (National Institutes of Health : NIH) の所長である Francis S. Collins, M.D., Ph.D. を招いての Special Lecture が設けられた。Collins 氏は、“Exceptional Opportunities in Biomedical Research”をテーマに、NIH におけるバイオメディカル研究の最前線を紹介するとともに、その中での医用画像の利用について説明した。

座教授の富樫かおり氏が日本人で7人目となる名誉会員に選出された。選出理由は、長年にわたる婦人科領域での MRI の研究などの業績が評価されたもの。12月2日には Presentation of Honorary Membership が行われた。

日本人研究者の活躍は、これだけにとどまらない。今回の RSNA では、1万3467題 (Scientific Presentation が8357題, Education Exhibit が5110題) の演題が応募され、Scientific Presentation の Paper が1754題, Poster が949題, Education Exhibit が2151題採択された。これらの発表の中から、Education Award において、佐賀大学の中園貴彦氏らの“Radiological and Histopathological Correlation of Thymic Epithelial Tumors”, 名古屋

記念大会を彩る イベントや特別展示

今回は、100回目の記念大会とあって、イベントや特別展示も多く用意された。Lakeside Learning Center では、Centennial Showcase というコーナーが設けられ、RSNA の歴史がパネルで紹介されたほか、過去のモダリティなども展示された。また、Technical Exhibit 会場である South Building のホール A には X-ray Art, North Building のホール B には、Wilhelm Roentgen Laboratory が設けられ、多くの参加者が記念写真を撮っていた。

Technical Exhibit では、100回を記念して11月30日に Technical Exhibits Grand Opening Ceremony がホール A とホール B を結ぶグランドコンコースで行われた。Technical Exhibit の出展企業数は636社 (事前公表値)、展示面積は2万6700平方フィートで、どちらも前回は下回ったものの、各社の新製品・技術の展示が100回目の記念大会を盛り上げた。

◎

次回の RSNA 2015 は、11月29日 (日) ~ 12月4日 (金) の日程で、マコーミックプレイスを会場に開催される。大会長はカリフォルニア大学サンフランシスコ校 Radiology and Biomedical Imaging 科教授の Ronald L. Arenson, M.D. が務める。

京都大学・富樫かおり氏が 名誉会員に選出

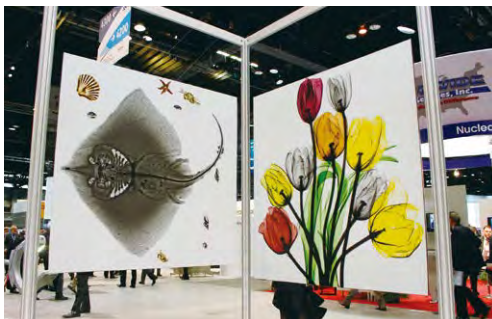
100年の歴史の中で、RSNA の国際化も進んでいる。海外の会員は5万4290人に上り、アジア地域では3782人が所属している (2014年12月現在)。今回、京都大学大学院医学研究科放射線医学講



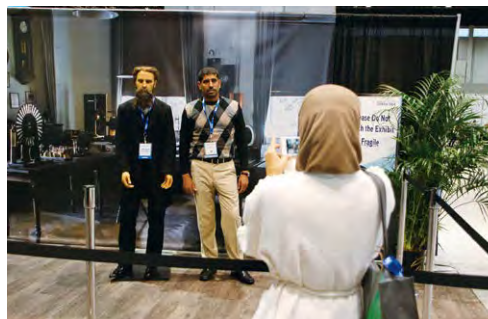
Announcement of Education Exhibit Awards で
受賞演題を発表する Dunnick 大会長



Lakeside Learning Center の
Centennial Showcase



Arie van't Riet の作品を展示した X-ray Art



記念撮影スポットとなった
Wilhelm Roentgen Laboratory